

20/6/ 1

個

第拾巻
オールストリート
(全街道日誌)

お 題 目

旅

- P1 ~ P6
さあいこう! 金谷 FERRO MARI E MONTI 2019

報

- P7 ~ P12
伊豆大島 × 自転車 × フォト ギャラリー
「Cycling & Photography Tours
自転車と写真で楽しむ旅 by HIS エコツアーデスク」より

告

- P13 ~ P16
春の伊豆大島 キャンプ& ライド

内容品 自転車旅 一路順風 りんぷろじえくと



ウェブサイト



ブログ

荷
送
人

株式会社 シヤノア 様
東京都台東区松が谷 1-2-3
ニュー松が谷マンション 1F
電話 03-3842-2883 (代)

記
事

- 右開き
オールストリートジャーナル
(自転車紀行)
● 左開き
りんぷろジェクト総合カタログ



ウェブショップ



YOUTUBE

Renaissance de cyclo tourisme

ALL STREET JOURNAL

Vol.11 2020 Spring-Winter

URING OW!



2019

FERRO
Mari e Monti



Photo Gallery



LET'S CAMP

さあいこう！金谷

FERRO MARI E MONTI 2019

2019年11月9日(土)～10日(日)



「お願いします。自粛を自粛して、
房総半島へ遊びにお越しください」

これは FERRO MARI E MONTI 2019 の公式サイトに
掲載された一文である。

Day 1 
5周年記念ショートコース
全長～39km

エイドステーション(AS)：1箇所
金谷港→Cafe GROVE→金谷港

Day 2 
ロングコース
全長～100km

エイドステーション(AS)：4箇所
金谷港→大山千枚田→みんなの
里→智蔵寺→勝善寺→金谷港



2019年9月9日、中部地方と関東地方を襲った台風15号(令和元年台風第15号)の影響で静岡県、神奈川県、そして千葉県全域は甚大な被害を受け、広い範囲で浸水、土砂崩れが発生し多くの尊い命も奪われた。

会場となる南房総では強風による建物の倒壊、長期間にわたる停電により11月開催の FERRO MARI E MONTI は開催できない可能性があったのだ。

しかし開催を断念することを考えていた実行委員は、各地で自粛ムードが漂う中、開催が地元のためになるかもしれないと思い、協力団体や地元のボランティアとの話し合いの結果、実行することを決意したのである。

11月9日(土)

5周年記念ショートコース初開催

国内でも数少ないヴィンテージバイクのイベント FERRO MARI E MONTI (以下フェットロマリ) は今年で5周年を迎え、千葉県は南房総、金谷港に隣接する鋸山美術館を会場としたサイクリングイベントが11月9日、10日の2日間にわたり開催された。

「FERRO MARI E MONTI」はイタリア語で

「スチール (Ferro)、海 (Mari) と山 (e Monti)」
という意味で、スチール製の自転車に乗って、海と山を越えよう、というコンセプトであり房総半島の大自然を表現している。

イベントは田園風景と伝統を重んじるため、エイドステーションには指定文化財の寺や道の駅で秋の味覚や郷土料理を楽しむ。実行委員長はモデルでスポーツジャーナリストのマルコ・ファヴァロさん。コースクリエーターも務める。

9日はヴィンテージマルシェやメカニックサービス、前夜祭が開催され、ヴィンテージバイクファンたちがこの日を待ちわびたと言わんばかりに、愛車自慢から情報交換、このイベントでしか会えない仲間たちと大いに盛り上がる。また参加者は鋸山美術館に無料で入れるほか、ジロ・デ・イタリアや60～70年代に活躍した偉大なレーサーたちの貴重なドキュメンタリー上映会なども開催される。

ヴィンテージマルシェでは、パーツの販売のみではなくウエアや雑貨、本なども並び、毎年多くの参加者が目をきらつかせ、お目当ての品をホリ探る。

おかげさまで今年もリンプロジェクト出店の他、ほかは大会の公式写真係として参加させていただいた。

今回初めて開催されるショートコースの部は9日に開催された。今まではミドルコース(65km)とロングコース(100km)のみだった為、ショートコースではご夫婦や女性の参加者が多くみられた。



ショートコースで南房総をアテンドするマルコさん。所々に台風の爪痕が残る。



タンデムバイクで参加のご夫婦。タンデムバイクは愛だ。

ヴァインテージバイクやクロモリバイクを所有していないが参加してみたいと思つて人には大変嬉しい内容だ。是非公式サイトにある「自転車について」をご覧ください。そこには年次別にドレスコードがあり、平成ノ令和自転車での服装はネオビンテージスタイルを推奨としている。これはおそらくリンジスタイルプロジェクトが提案するスタイルのことだと想像するに難くない。

明治ノ昭和製造の自転車については、やはりここはヴァインテージバイクの祭典、クロモリバイクのみ参加が認められる。(昭和自転車は初期のアルミフレームも可。)そして平成ノ令和製造の自転車については自転車の車種問わず参加することが可能となった。

さて今回のフェロマリは5周年、さらには令和元年を記念し、今までになかった初心者でも気軽に参加できる40kmのショートコースが追加された。そして明治、大正、昭和、平成、令和5つの時代に製造された自転車も参加可能となった。



サイクルキャップにつけたチャリティ缶パッチ。売上げはすべて寄付される。



パーツやウェア、様々なお宝が並ぶヴァインテージマルシェ。

本部テントで販売された、チャリティ缶パッチを購入し、サイクルキャップにつけ、実行委員長のマルコさんを先頭に午前11時ショートコースがスタートした。まずは富津市の方向へ東京湾を眺めながら第一エイドステーションへと向かう。ショートコースではバラバラで走るのはなく、皆で一緒にゆつくりと走る。初心者や走行スピードに自信のない方でも問題なく走行できるペースだ。

ほとんど登りもなく、金谷の景色を眺めながら、とつておきの裏道を通り、古民家が集まる私道のような細い道に入り込む。

本場にこんな奥まった所にエイドステーションが存在しているのだろうか、少々不安に思う参加者もいたはずだ。

ちょうど12時頃に第一エイドステーション「Cafe GROVE」へと到着し、木々に囲まれた



ランチ後の集合写真。木々に囲まれたサイクリストの秘密基地。

上部枠：GROVEさんの和食ランチ。オシャレでヘルシー。おかわりもして大変満足！

大きなテラスのあるカフェが突如目の前に現れ、参加者は大変驚いていた。もちろん僕もであるが・・・。

木製のサイクルラックも設置されていることから、サイクルリストには有名なお店のようである。それもそのはず。オーナーがサイクルリストだったのだ。お店のお母さんもデニムのベストに赤いシヨールを首に巻き、大変オシャレな佇まいである。エキゾチックミナミボウソウド。

サイクルラックにヴァインテージバイクをかける、カフェの外観により一層花が咲く。

お待ちかねのランチタイムでご用意いただいたメニューは、炊き込みご飯や煮物、おしんこに味噌汁など。和食を中心とした食べ物提供された。



1834年創業の宮醤油店さん。老舗の店舗は登録有形文化財に認定されている。



先代の宮正藏さん。様々な種類の醤油が並び、味見すればあら不思議。全て購入したくなる。

どれもこれも懐かしい味なのに、おばあちゃん家で食べる薄い味ではなくしっかりとした味わいだ。そして洋食器やエスニック風の木彫りの箸、さらにお店の雰囲気やそうさせるのか和食なのに見た目目が新鮮なネオ和食であった。サイクリング時はさっぱりとした食事を好む僕としては、最高のランチである。

次は「南房総といえは宮醤油」といわれるほど有名な1834年創業の「宮醤油店」へと向かう。GROVEさんからほど近い場所であり、比較적으로到着した。

老舗の店舗は登録有形文化財に認定され、古き良き時代の建物がそのままに鎮座していた。

しかしそれゆえ、台風15号の影響で店舗の屋根部分が損壊し、勝手に改築工事をするのができず、ブルーシートに覆われたままの状態になっていた。ここでは先代の宮正藏さんが同店の長い歴史から、醤油作りに対する熱い思いを語ってくれた。その後はマルコさんおすめの南房総裏道コース(途中林道風の所もあり)をぐるりと周り、15時に鋸山美術館へゴールした。



「フェロマリ」の皆を絶対に迎え入れるぞ！」THE FISHと金泉館の協力なくしてフェロマリは始まらない。



前夜祭会場の「THE FISH」。土産コーナーやレストランも賑わいを取り戻していたが復興までに大変な苦労だったのだろう。

ゴール後はフェロマリ公式宿「金泉館」にて、「伝説の巨匠シリーズ」フエリチエ・ジモンディ」のドキュメンタリー上映会も開催された。

夜は毎年恒例の前夜祭だ。会場は鋸山美術館から徒歩2分の「THE FISH」である。

今年も南房総の魚介類とイタリアンを融合した色とりどりの食材が並んでいる。

前夜祭は参加者同士の交流の場でもあり、豪華賞品が当たる抽選会や自転車雑誌の歴史などの講習会も開催される。さらに今年は台風15号で被災した南房総へ義援金を募るチャリティオークションも開催された。南房総で活躍するソウルバンドやプロのサックスプレイヤーが会場を盛り上げ、生音を聞きながら、まさに大人の時間を演出していた。

金谷港に隣接しているTHE FISHは、強風によりガラス張りの建物は粉々に

砕け、あらゆるものが吹き飛ばされてしまったようだ。「さあいこう！金谷」というテーマを掲げ、復興までの道のりを記録した上映には大変心を打たれ、気づけば涙を流していた。

前夜祭でTHE FISHや金泉館のオーナーと直接お話をさせていただき、「フェロマリエモンテイの皆さんを絶対に迎え入れるぞ！って思ってた張って直したんです。本当に皆さんに来ていただけて良かった。」と言っていた。金泉館も被災し、一時予約が取れない状況となっていた。そしてこのイベントが取れない状況となる可能性もあったが、まだまだ落ち着いていない状況の中、開催させていただけた事に、地元の方、ボランティアの方々には本当に感謝するしかなかった。



大人の夜を演出してくれたソウルバンド「TRIES」さん。



チャリティオークションではたくさんのお宝が集まり、いつも以上に白熱した前夜祭となった。



いつもご家族で参加されている仲良しご夫婦。ワールドジャージと着物が大変素敵だ。



世界で活躍する富津市出身のサックスプレイヤー「WaKaNa」さん。



年代を感じさせる紐でシューレースタイプのサイクリングシューズ。



ヴィンテージバイクファンが集り始める。ブジョーの旧車が良い雰囲気を醸し出している。

11月10日(日)

Buona Vista 南房総！

ミドル、ロングコース開催

カラッと晴れた南房総は、朝から強い日差しが降り注ぎ、11月だというのに半袖で出歩ける陽気である。見上げれば抜けるようなすっきりとした青空。金谷港からはくっきりと見える富士山。振り返れば「石と芸術の町」のシンボル、鋸山が勇ましくそびえ立つ。

まさにサイクリング日和の本日。ミドルコース、ロングコースを走るサイクリストが続々と集まる。クラシックジャージで往年のロードレーサースタイル、ニッカポッカとネルシャツでツーリングスタイル、皆大変オシャレな出で立ちだ。

会場にはブジョーの旧車が展示され、大きなヤシが生える海沿いの会場は、まるでフランスのニースを思わせる雰囲気となっていた。

スタートは古い自転車順。つまり100年前に製造された自転車から出発するのである。

まずはミドルもロングコースも第1エイドステーション「大山千枚田」を目指す。



大会最古の自転車で登場する英雄。ギアはシングル。100年前の自転車で坂道もモリモリ登る。



鋸山美術館前はエキゾチック南房総。

会場を出発し東京湾と富士山を眺めながら127号を南下し、保田交差点から34号に入り鴨川市方面にまっすぐ進んで行く。

34号に入ると極端に車は少なくなり、大変走りやすくなるが、そのかわりじわじわと登り始める。さつそく南房総の洗礼を受けたサイクリストがひーひー言いながら、きびしい登りとゆるい下りを繰り返して、スタートから約20km地点の「大山千枚田」に到着する。

到着と同時に明治大正時代クラスでスタートしたサイクリストとすれ違った。

彼らはとくにエイドステーションに到着し、食事を済ませ、颯爽と走り去って行った。

東京から一番近い棚田で日本の原風景といわれる素晴らしい田園が広がる大山千枚田。

「日本の棚田百選」にも選ばれ、観光で訪れる人も多い。千葉県で一番高い愛宕山のおもたにある為、ため池や水路もなく、雨水のみで耕作を行う国内でも珍しい棚田である。



日本が誇る絶景、大山千枚田。



台風の後まじさを物語る滑落した道路に息を呑む。

そんな絶景を眺めながら、この棚田で採れたブランド米、長狭米のおにぎりや味噌汁、口内いっぱいに甘みが広がる柿。シンブルなメニューだが、どれもこれも厳選された地元の味が、ペダルを踏みこむエネルギーと変わっていった。

次は第2エイドステーション「里のMUJI みんなみの里」を目指す。たいした距離ではないが、舗装路を走るだけのサイクリングイベントと違い、「田園風景を楽しむ」というコンセプトのもと、フェロマリ名物のダートコースが待っている。地元の協力で田畑の細い隙間をのんびりと抜けてゆく。普段走ることができない場所は、ススキが生い茂り、秋の気配を存分に味わうことができるのだ。子供の頃に、謎の獣道を自転車で探検したときのワクワクが蘇る。

里のMUJEE みんなみの里でも地元食材が提供される。ここは道の駅として営業しており地元野菜やお土産を購入することができる。たくさんお土産を買ってもサポーターカーに預けられるので安心だ。以前こちらで購入した、地元産巨大シイタケが大変美味であった。売店でシイタケを眺めていたら「デカければデカいほど美味！」と突然地元のおじさんに話しかけられ、この巨大シイタケがどれほど美味なのか力説された逸品だ。おススメの調理方法はシイタケバターステーキ。

この先はロングコースとミドルコースの分岐点があり、我々撮影班はロングコースの第3エイドステーション「知蔵寺」を目指す。

国道410号を南下し、一山超えると南房総市の市街地に入る。

久々に山道を抜け出し、空の広い、穏やかな道が続いた。

しかし開けた南房総市では、所々でビニールハウスが無残にも崩れ落ちている光景が多くみられた。台風による強風の被害である。また、これまでの道のりでもブルーシートで屋根を覆う家々をたくさん見てきた。テレビで見る事よりも、実際に見て聞く事の方が、災害への感じ方が随分と変わってくる。



智蔵寺 OYATSU STN.。住職が手書きで書く看板を、毎年楽しみにしている。来年は何だろう。



智蔵寺で振舞われる色とりどりの漬物は、病み付きになる旨さ。



地元産巨大シイタケ。帰宅後、シイタケバターステーキになって rocky が美味しくいただきました。

開基が1503年という知蔵寺では住職がたくさんの補給食を用意してくれている。おにぎりから特製の漬物、そして千葉といえば落花生、しかも「茹で！」

茹で落花生は地元静岡で親しんでいたが、意外と見かけないので、懐かしい味に舌鼓を打つ。参加者からは漬物が美味すぎて「箸をおかない限り止まらない」という言葉まで生まれた。

補給食が盛られた軽トラックには手書きで「OYATSU STN」と盛大に書かれてる。ちなみに去年は「Food Aid」だった。これは軽トラックの後ろが綺麗ではなく、何か物足りなさも感じた住職が毎年心を込めて書いてくれているのだ。更に今年の看板にはいい感じにエイジングされた木製の古材が使用されていた。住職曰く「あの板、長年旅した感じがこのイベントっぽくてカッコいいだろ？」

とても素敵だ。一見無口そうに見える住職だが、実はユーモアたっぷりでもとても優しい方なのだ。住職自ら押してくれるチェックポイントのスタンプには何やら温かみと不思議なパワーをもらえたような気になり大変ありがたみを感じる。

今年も去年に比べ大きくなった寺の子が自転車の練習に励んでいた。来年は補助輪が外れているかな？

本当に漬物を食べる箸がとまらないので、煩惱(箸)を捨て、智蔵寺をあとにした。

お腹も満たされ、眠気を誘う13時半過ぎ、我々は第4エイドステーション「勝善寺」を目指す。エイドステーションが寺から寺(伝統)という何とも風情のあるコースレイアウトがフェロマリらしさでもある。

知蔵寺からは県道258号、88号をひたすら北上し、89号を内房の方へ走ってゆく。

ここでアクシデントが発生する。それはミドルコースを走っているはずの我が「社長」がロン



勝善寺の石燈とサイクリストは不思議なほど相性が良い。



勝善寺 元気なおかあさん達。

グコースを逆に走ってくるではありませんか。すれ違いざまに「しゃちよーろーっ！」と声を掛けたら「おいっす！」とまるでコースを間違えていることに気づいていない様子だ。すぐに電話で正しいコースへ導き、事なきを得た。この先にロングコースとミドルコースが合流する交差点があり、それに気づかなかったようである。

長いアップダウンとダートコースが入り交じり、ようやく勝善寺まで辿り着いた。ここはミドルとロングコース最後のエイドステーションであり、初参加の方はきつと、エイドステーションはこの道で合っているのかと首をかしげるだろう。なぜなら急に道が狭く暗くなり、山の方へ登り始める登り切ると、山の中にポツカリと穴が開き、そこだけに日差しが降り注ぐ勝善寺が現れるのだ。

勝善寺では毎年おなじみの元気なスタッフが出迎えてくれる。とにかくみんな元気で。甘い和菓子やレモンティー、そして元気まで補給できる。

勝善寺は1190年に創建したと伝えられ、大変有名な「見返り美人図の作者、元祖浮世絵師と呼ばれる」菱川師宣に関する資料が数多く保存されている。なぜなら師宣は安房国出身で妹が勝善寺の住職の妻だったからである。

そしてここを訪れたら本堂の彫刻にも注目してほしい。同じく安房国出身で江戸から明治にかけて活躍した彫刻師「後藤義光の立派な彫刻が施されている。ほくはあの複雑な彫刻を見ていつも思うことがある。」「どうやって彫るんだろっ？」と。

レースイベントではないので、皆それぞれに疲れを癒し、自分のペースで勝善寺を後にする。

そして本来なら、この先は鋸南町の保田中央海岸に出て、海を眺めながら最後のクルージングを楽しむルートであった。しかし鋸南町は台風による甚大な被害を受け、海沿いのルートは通行止め

より、走ることが出来なかったのである。ゴールの鋸山美術館までは残り12km。最後の道のりは、皆それぞれに南房総の復興を願いペダルを踏みしめたに違いない……。そしてゴールフラッグをくぐった。

会場では完走書や記念品をもらい、お買い物や記念撮影をし、思い思いに過ごした後にパラパラと解散していった。ここから見える橙色の夕日は本当に素晴らしい。

帰りは社長と一緒に、いつもの定食屋でアジ定食を食べて帰った。分厚い身のアジフライは焼き立てのパンのようにふっくらし、サイズも大きい。魚にうるさい社長も驚きの逸品だ。

南房総は何度もツーリングをしているが海の幸、山の幸はどれもこれもサイコッドである。合言葉は『さあいこう！金谷』である。

【最後に】

このイベントに参加し（参加しなくても）、現地に泊まり、食事をし、お土産を買うなど観光に行く事が僕たちができる復興の支援かと思っています。もしもあなたがテレビの前で被災地の映像を見て、何かお手伝いをしたいと感じていたら、可能であれば現地に観光に行ってみると良いでしょう。すぐに、ではなくても、1年後2年後でも良いのです。復興には大変な時間がかかるからです。ほくは南房総名物の金アジを楽しむに来年も再来年も FERRO MARI E MONTI に参加します。

(文責 眞・rocky)



美しい景色の海岸沿いは走れなかったが海を眺めゴールへ向かう。



明治時代の自転車でロングコースを完走。



全てのチェックポイントを通過した証。

伊豆大島×自転車×フォト ギャラリー

A collection of photos from "Cycling & Photograpy Tours"



Photo by Nozomu Ishikawa
Canon EOS 5D Mark III
TAMRON 17-35mm F/2.8-4 Di OSD (Model A037)
17mm 1/200 秒 f/5.6 ISO 200

Cycling & Photography Tours

自転車と写真で楽しむ旅 by HIS エコツアーデスク

徒歩よりも遠くへ行けすぐ立ち止まることができる自転車と、旅の記録もできる写真の相性は抜群です。

プロフォトグラファーのサポートやアドバイスを受け、旅の風景を楽しみながら、写真の腕を磨くことができる「自転車と写真で楽しむ旅」をリンプロジェクトはサポートしています。

スタッフが厳選したルートや見どころを自転車で巡る旅は、絶景と出会う旅でもあります。

この旅に参加するとどんな写真が撮れるのか——

2019年11月15日(夜)～17日に開催された、伊豆大島ツアー参加の方の写真を一部紹介します。

今後のツアーについてはこちらをご覧ください <https://eco.his-j.com/info/cycling/>

D.Kurokawa さん



Canon EOS Kiss X2
TAMRON SP35mm F/1.4 Di USD(Model F045)
35mm (35mm 換算 56mm) 1/200 秒 f/5.6 ISO 100



Canon EOS Kiss X2
TAMRON SP35-150mm F/2.8-4.0 Di VC OSD(Model A043)
76mm (35mm 換算 123mm) 1/100 秒 f/4.0 ISO 100



Canon EOS Kiss X2
TAMRON SP35-150mm F/2.8-4.0 Di VC OSD(Model A043)
150mm (35mm 換算 243mm) 1/125 秒 f/8.0 ISO 100



Canon EOS Kiss X2
TAMRON SP35-150mm F/2.8-4.0 Di VC OSD(Model A043)
150mm (35mm 換算 243mm) 1/640 秒 f/8.0 ISO 100



KYOCERA TORQUE G04 (KYV46)
3.94mm 1/590 秒 f/1.8 ISO 100



KYOCERA TORQUE G04 (KYV46)
3.94mm 1/500 秒 f/1.8 ISO 100



KYOCERA TORQUE G04 (KYV46)
3.94mm 1/60 秒 絞り f/1.8 ISO 100

TANABE さん



Panasonic LUMIX DC-G9
LUMIX G X VARIO 12-35mm F/2.8
35mm (35mm 換算 70mm) 1/320 秒 f/2.8 ISO 200



Panasonic LUMIX DC-G9
LUMIX G X VARIO 12-35mm F/2.8
35mm (35mm 換算 70mm) 1/640 秒 f/4.5 ISO 200



Panasonic LUMIX DC-G9
LUMIX G VARIO 45-200mm F/4.0-5.6 II
45mm (35mm 換算 90mm) 1/400 秒 f/6.3 ISO 200



Panasonic LUMIX DC-G9
LUMIX G VARIO 45-200mm F/4.0-5.6 II
67mm (35mm 換算 134mm) 1/1250 秒 f/6.3 ISO 200



RICOH GRⅢ
GR LENS 18.3mm F/2.8
18.3mm (35mm 換算 28mm) 1/30 秒 f/5.6 ISO 200



RICOH GRⅢ
GR LENS 18.3mm F/2.8
18.3mm (35mm 換算 28mm) 1/400 秒 f/2.8 ISO 125



RICOH GRⅢ
GR LENS 18.3mm F/2.8
18.3mm (35mm 換算 28mm) 1/500 秒 f/5.6 ISO 200



RICOH GRⅢ
GR LENS 18.3mm F/2.8
18.3mm (35mm 換算 28mm) 1/80 秒 f/2.8 ISO 125

講師からのメッセージ

～自分の写真がもっと好きになる方法～



Photo by Nozomu Ishikawa
Canon EOS 5D Mark III
TAMRON 17-35mm F/2.8-4 Di OSD (Model A037)
17mm 1/250 秒 1/8 ISO 100

伊豆大島でのフォト&サイクリングツアーにご参加いただいた方々、本当にお疲れ様でした。島でのツアーはどうしても合宿的になってしまうのですが、その甲斐あって参加者の方々の写真は、堂々とお見せできる旅の思い出を伝えるものになっています。皆、一緒のところを巡っているのに、着目するはもちろん、機材それぞれの特色も影響し、こんなにいろんな写真が撮れるんだということを実感できたはずです。同じ時間を共有した皆の写真は、何にも代えがたい写真勉強の作例となったのではないのでしょうか？

しかし写真を撮っただけでは、自分の写真の良さに気がついていないということがあり、枚数をセレクトして並べてみることで、旅の臨場感や、好みの被写体や撮影スタイルを、そこで初めて発見することができるのです。ぜひご自身でも撮った写真のセレクトをしてみてください。その際に見る方が飽きないように（かつ伝わりやすいように）枚数を20～25枚程に設定し、順番や並べ方などを考えて選んでいくことをオススメします。同じような写真をたくさん選んでしまうと、本当に見せたかった写真が薄れてしまうので、取捨選択は辛い作業ですが（自分が撮った写真は、どれも思い入れがあるので……）、思いきってセレクトしてみてください。枚数が絞れると、これだという雰囲気になって自分の撮った写真がもっと好きになってくるはずです。

このツアーに参加いただいた皆さんの写真は、旅の楽しさを伝えることができるものになっているので、プリントしたり、フォトブックを作ったり、WEBにアップして、旅と写真、そしてサイクリングの楽しさをいろんな方に伝えていただければ嬉しいです。

今回のツアーでは、機材の使い方は旅の途中に個別にお伝えしましたが、それよりもWEBや本、座学では伝わりにくいような、旅での写真の撮りどころや出会った瞬間を逃さずに撮れるフットワークなどを、今回の伊豆大島の旅にて、お伝えさせていただきました。参加者の皆様にはそれらの旅の撮影スタイルが少なからず身につけているかと思うので、次の旅でも今回の経験を思い出しながら、これからも自転車と写真を長く楽しく続けていただければ幸いです。

編集者・フォトグラファー

石川 望（いしかわのぞむ）

自転車雑誌「Bicycle Magazine」の編集長、「Bicycle Navi」の編集に関わった後、自転車と写真をテーマとした「Bicycle Photo Magazine」を立ち上げた編集者兼フォトグラファー。その他、自転車やアウトドア、アパレルブランドの写真撮影やWEB関連のディレクションも行う。日常では被写体もテーマも問わず35mmフィルムカメラを中心にした撮影をライフワークにしながら、自転車や旅をテーマとした写真ワークショップに関わる。

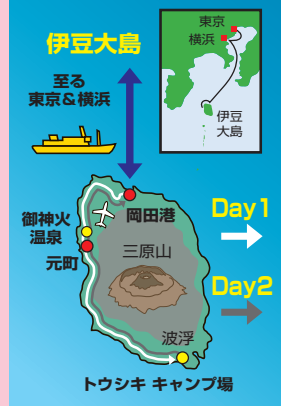
H.I.S. プロデュースの「Cycling ana Phototrip ～自転車と写真で楽しむ旅」のナビゲーター及び、ツアーでの写真講師を担当。



今回はキャンプ道具で大荷



ベルさんは人気店、開店直後に行くのが吉



■ 伊豆大島へのアクセス
東京都の竹芝桟橋より大型客船（夜行）で一晚、高速ジェット船なら最短1時間45分

詳しくは東海汽船株式会社
<https://www.tokaikisen.co.jp/>



2019年3月16日(土)～17日(日)

春の伊豆大島 キャンプ&ライド

竹芝桟橋（東京）⇒横浜港 ⇒岡田港（伊豆大島）

⇒ トウシキキャンプ場 ⇒

岡田港（伊豆大島）⇒横浜港 ⇒竹芝桟橋（東京）

春の大島上陸はあけぼの。

やうやう白くなりゆく三原山の山ぎは、
すこしあかりて、たなびく雲の絶え間より
春雨の降らば、濡れつつ行かむ。

清少納言『枕草子』引用

平成31年3月16日の明け方、さるびあ丸は定刻通り伊豆大島の岡田港に着岸しました。
日の出直後で薄暗い上、小雨が降っていて涼しいです。自転車を組み立て、キャンプの荷物を載せ、雨具を着てから、走り出しました。

朝は雨、元町へ向かう頃は更なり。
道にもなほ、落ち葉のおほく散りたりける。また、ただ一つ二つなど、店を散策するも、をかし。雨など降るもをかし・・・くはなし！否、雨なふりそね。

小雨に振られ、濡れて滑る落ち葉に気をとられつつ、港から小一時間程で元町の御神火温泉に到着しました。スーパードラッグの時間まで、お風呂に入ったり朝食を食べたりと長めの休憩を取りました。雨の道のりは風情があつて良い！・・・いいえ、雨には止んで頂きたいです。

9時頃になると雨が上がり、元町随一のスーパードラッグ「べにや」さんやパン屋「ベル」さんで昼と夜の食料を調達。そこから2時間ほど走り、バームクーヘンと呼ばれる地層大断面面に差し掛かりました。ここで昼食休憩し、14時少し前にキャンプ場に到着しました。



肉も林檎も焚火で焼きます



林檎の芯を抜き、バターと砂糖を詰める



炙り用の串作成中♡



広げてびっくり、
アライテント率高し!



就寝までの僅かな間、暗闇にテントが浮かぶ



女子の皆さんもテント設営は手の物

アルミホイル
職人
自作
パスタ鍋



アルミホイール
ロングサイズ

クッカー
いらず
I ♥
AL

アルミホイール
最高!!

今回はみんなソロ装備で一緒にキャンプ、テントや食料はそれぞれが自分の分を持参しています。各自で本目のお宿を設営した後、おやつ休憩や焚火の準備。Sさんが焚火の焚き付けを削る傍らで、キャンプ慣れた女子たちも木の枝で火炙り用の串を自作していました。

焚火と夕食は夕暮れ。
夕日のさして、トウシキの山のはいとちこうなりたるに、トマトを串刺して焼くとて、三つ四つ二つ三つなど炙りけるさへあわれなり。まいて肉など焼きつるが、いと香わしきはいとをかし。日入りはてて、風の音、灯の光など、はたいふべきにあらず。

ソロ・・・と言いつつも、隣の晩御飯は気になります。アルミホイルで鍋を作ってバスタをゆでたり、メスティンでご飯を炊いたり、バーナーでスー
プを作ったりと、十人十色でした。私は焚火にリン
ゴを投入しておきました。

日が暮れて腹八分目になった頃、Sさんがおもむろに肉の塊を取り出し、自作の串に差しつけて焚火にかきました。ケバブの登場です！あたり一面に香辛料の香りが漂います。全員焚火の周りに集合！！もれなくご相伴にあずかりました。

食後は急に風が強くなり、椅子やカップが飛びそうになりました。再び雨が降り冷えてきたので、火の始末をしてそれぞれのテントに潜り込みました。



朝からケバブ、トマトも炒めます



お湯を注ぐだけ、外でもお茶が飲めてお勤め!



寝起きの寒さに焚火が嬉しい



フレンチトーストを焼きつつ暖を取る



目玉焼きとパンのコラボ!?

底面の 汚れ落とし!

翌朝は6時頃、なんとなく寒くて目が覚めました。焚火の暖かさが嬉しい!

バーナーでお湯を沸かしお茶やコーヒーで温まってるから、朝ごはんの準備です。自転車キャンプで大切なのは、持つて行った食材は使い切る。こと。帰路の荷物を少しでも少なくすべく、各自の残りの食料をすべて机に乗せてメニューを決めました。フレンチトースト目玉焼き、ケバブとトマトの炒め物……豪華です。デザートには甘酒や焼きリンゴもあります。朝ごはんと同時に進行で、撤収の準備も行わなければなりません。テントは乾かした後、ごみを振り落としてから収納します。風があまり強くなって助かりました。作業をして暑くなったのか、はたまた気温が上がったのか、出発前に脱いだ防寒着が意外と嵩張り、荷物が増えました。

キャンプの朝はつとめて。風のふきたるはいふべきにもあらず、テント内の寒さも、また外のいと寒きに焚火など急ぎおこして、珈琲もてわたるもいとつきづきし。撤収の時に成りて、ぬるくゆるびもていけば、自転車の荷もふくれがちなりてわろし。

室内の砂出し!!

底面の
天日干し!!!

グランドシートも
忘れずに

■トウシキキャンプ場

Tel 04992-2-1446

予約・お問い合わせ: 大島町役場観光課 施設管理係

住所: 東京都大島町差木地

テントを
たたむ
前に

ありや





トウシキキャンプ場の脇はすぐ海、青空が綺麗だったので、出発前に記念撮影。

ランタン
カトラリー
タオル
パニアバック
トング ペグ
グランドシート
バックパック



帰路のバームクーヘンは上り基調



テントを撤収、略れてよかった



ポロパンツ軍団 参上!

初代から7代目まで、歴代ポロパンツが登場

コンパクトチェア 着替え
コップエル レインポンチョ
給水
バック
マット
ハンマー
食器



帰路の小道では、木連や椿が咲いていた



荷物の固定が甘くないか、Sさんがチェック

テント
耐火手袋

自転車



輪行バック
救急
セット
クッカー
食材
着火
ツール
バーナー シュラフ
トイレットペーパー ナイフ

本日の船は岡田港発とのこと。キャンプ場からは20km程度の道のりですが、風が強いため余裕を持って朝10時過ぎには走り出しました。バームクーヘンや元町のトリトンさんでアイス休憩を挟みつつ、12時半過ぎに無事岡田港に到着。

計画の段階では、「1日の走行距離が20kmなんて時間が有り余るのでは？」と思っていた。しかし実際に走ってみると、重たい荷物と向かい風で、予想以上に時間と体力を使いました。走行距離が短いと気持ちに余裕が生まれ、寄り道や休憩がたくさん取れました。自転車始めたばかりの方もいらっしやったので、丁度良い距離だったと感じました。今回は3月とはいえ風がかなり冷たく寒かったので、次回はもう少し暖かい時期に訪れたいです。

(余談)
私は寒い時期、通勤や仕事だけでなく、ツーリングやキャンプでも「ポロパンツ」を愛用しています。昨年はポロパンツが作れませんでした。今年こそ新しいポロパンツを世に送り出したいと考えています。全国で数万人(?)のリンブロボロパンツ愛好家の皆様、どうぞご期待くださいませ♡

(文・背が小納言)